

## 調査報告書

- 1 とき：2014年4月16日
- 2 行先：たかなしの森保育園 ルームルナⅡ エンジェル保育園
- 3 参加者：わしの恵子、山口清明、岡田ゆき子、政務活動補助員（広瀬）
- 4 主な内容

### （目的）

- ・ 待機児童対策を「スピード感」を持って進めていくとした名古屋市は、2011年度より、これまでの民間保育所の整備補助から、賃貸方式民間保育所の設置、グループ型家庭保育室の設置へと方針を変えて進めてきた。市議団では①主に3歳未満児（賃貸型は3歳含む）に限定して施設設置を進めることは、再度転園申請が必要であり、親に負担を再度強いることになる②専門職員の1/2配置や給食の提供不要など設置基準の緩和により保育の質に格差が生じること③何よりも親が求める保育は、整備型の認可保育所であることを求めてきた。
- ・ 賃貸方式 48施設、グループ型 47施設（2014年予算加えると賃貸78、G47、小規模25）建設費（3/4市負担）賃貸料（3/4市負担 10年）とも、整備型に比べて自己資金は少ないメリットあり。
- ・ 現地視察で、施設の現状と課題を明らかにし、市に求められている支援、施設は何かを知る

### （現場視察）

#### 【たかなしの森保育園】中村区 60人定員 倉庫改修

- ・ 法人はすでに賃貸方式1か所（0～3歳）を開設しており、2施設目の場所を探し、空き倉庫物件の利用を検討した。
- ・ 建築基準法にのっとりたか改修総費用は3000万円（うち3/4補助）。それ以外に補助対象外の費用に1400万円を要した。礼金3か月分（3/4補助）賃料21万円/月（3/4補助10年間）。
- ・ 1カ所目の賃貸方式保育所は3歳までだったため、保護者の問い合わせに「3歳卒園後、保育所はどうなるか」の問い合わせが多く、2カ所目については法人として卒園まで責任持ちたいと伝え、就学前まで60人定員の設置認可をとることができた。
- ・ 一学年10名一クラスで、全員収容の部屋はない。市が認可してくれるなら、未満児だけ別棟にして、3歳以上児をもっと広い部屋で保育したいと思うが。

- ・ 建物の中に入ると、保育園らしい内装。写真は5歳児の部屋。建築基準法に従い改修します。採光を確保するため新たに窓をつくり、鉄筋がむき出しだった柱には木目のクッションシートが張られていた。倉庫の高い天井を利用して、天窓から光が注ぐつくりになっている。



【ルーム ルナⅡ】 マンション賃貸 15名定員 丸の内2丁目

- ・ 保育場所はマンションの一階、元レストランを改修。隣は飲食店。公道から園の表札は全く見えない。
- ・ 視察時の登録児童9名うち等園児は6名。面積基準はクリアしている。リビングに間仕切りカーテンのレールがあるが、視察時は使われずリビングに大人3人子供6人が過ごしている。
- ・ トイレは成人用の様式が一つ。「おまるは?」「ない。大人用トイレを使用している」ということ。
- ・ 必要面積は確保していますが、最大で大人6人と子ども15人となれば狭い。面積の最低基準が低すぎるのが問題。



【エンジェル保育園】 東区新出来町 60定員 (72人入所) 店舗改修

- ・ 理事長自ら、当時うどん店に行き、交渉した。
- ・ 賃料69万円/月
- ・ 一階、店舗を0~1歳児 2階和室(畳)2~3歳 3階(畳)4~5歳を利用。2階は宴会場だったため、廊下は広く、入り口はふすまをそのまま利用しており、保護者からも「マンションには和室がないので、よい経験になる」と喜ばれている。
- ・ 屋上に水遊びを可能に改修。トイレ、シャワーを設置した。水遊び場には水回りの設置を市に指導された。

- ・ 店舗部分の階段、ステップは大人用のまま使用。避難用階段外付けで設置。

(法人とのやり取りから)

● 賃貸方式保育所

- ・ 「とにかく開所できて地域に喜ばれているが、隣地があれば（実際はない）増築したいところです」と本音を語られました。既存の建物での整備に法人も限界を感じている。

● グループ型家庭保育室

- ・ グループ型家庭保育室は給食の提供を義務付けてないが、法人は認可保育園も運営しており、その給食室で調理したものを運び提供していた。「子どもにとって給食は大切。給食の提供は当然やっていきます」と。
- ・ 「限られた少数の保育よりも、保育園ならではの集団保育の経験は大切」とも言われ、ここでも、「とりあえず待機児の受け皿」づくりだけでは、健やかな保育の実施は難しいという本音が聞けた。
- ・ 市は3歳未満児の施設を中心にたくさん設置してきたが、保護者からは「3歳で転園しなければならない」不安があり、法人にとっても「就学前まで責任をもって預かりたい」という思いがかなえられない。
- ・ 「名古屋市の保育のよさは、公民の格差を是正するための「民調費（民間社会福祉施設運営費補給金）制度によることが大きい。守ってほしい」との要望あり。

(視察終えて)

- ・ 名古屋市は緊急対策で、とにかくたくさん施設は作ったけれど、保護者や法人が求める保育園は、設置基準が守られ、就学前までしっかり保育ができる、土地・建物まで子どものために考えられた整備方式の認可保育園だという確信を持つことができた。
- ・ 名古屋市の認可保育所は今だ営利企業の参入を認めていない。公立と社会福祉法人など非営利法人が支えている。今後民間保育園
- ・ 待機児童をたくさん抱え、緊急的だけれど公設公営の一時入所保育園を整備した、「静岡市立待機児童園おひさま」を視察と合わせて、待機児童対策を市民本位に進めていく方向を作り、こども子育て支援法施行に向けての名古屋市の条例づくりにも反映させて聞く必要があると考える。